

農業技術の介入によるインドアンダマン諸島における 2004 年津波からの農業家計の回復

久米 崇

総合地球環境学研究

要旨

アンダマン諸島は、近隣のニコバル諸島とともに、2004 年 12 月の津波によって最も大きな被害を受けた地域の一つである。津波前、アンダマン諸島は十分な降水により、農業生産に適した環境であった。しかし、津波による農業環境の破壊が大きく、農家は家計を迅速に元の状態に戻すため、新しい農業技術を導入する必要性が生じた。自然災害の被災地では、住民の家計と自然環境は速やかに回復されるべきである。本稿では、アンダマン諸島において農業技術の介入によってどのように農家の家計が回復したかを報告する。同時に自然環境、すなわち土壌、水資源、稲作生産に関する津波被害（特に塩性化被害）の程度とその回復についても報告する。試験圃場では、圃場面を盛り土によって高くしココナツの外皮で作物を覆う方法と、幅広の圃場面と畝を設ける方法によって、農家家計を回復させることに成功した。2 度の雨期後には、土壌および水資源の塩性化は津波前の状態に回復した。その主な回復要因は、年間 3,000 mm を越える降水が塩分を洗脱したことによる。アンダマン諸島における家計の回復は、農業技術の介入によるものでもある。本調査地における農家家計の回復は、人間活動（新しい農業技術の介入）と自然水循環（豊富な降水）の相乗効果によるものであるといえよう。